

審 査 の 結 果 の 要 旨

氏 名 末吉 秀二

本研究は南ヨルダン農村部におけるアラブ集団を対象に、社会文化的小よび生物学的側面から本集団が維持する高出生力のメカニズムの解明を試みたものであり、以下の結果を得ている。

1. 本集団の出生率は、他の自然出生力集団の出生率と比べて高いことが示された。この高出生率の要因は、社会文化的規範による産後の不妊期間の短縮によるものと考えられる。
2. アラブ社会特有の婚姻形態が出生力に与える影響に関し、一夫一婦婚の女性に比べて一夫多妻婚の女性の出生率が低いことが示された。第一婦人における低妊孕力、第二婦人以下の女性の配偶者における再生産能力の低下がその要因と考えられる。
3. 本集団では避妊の効果が低く、避妊が出生率の低下に寄与しないことが示された。その要因は、社会文化的規範による男性の女性に対する優位性、そして女性の避妊行動にあると考えられる。

以上、本論文は人口学研究が極めて遅れているアラブ社会において体系的に収集したデータに基づき、出生力転換初期における高出生力維持のメカニズムを社会文化的小よび生物学的要因により明らかにしており、本研究成果は、ミクロ人口学における方法論の発展に貢献するとともに、出生率が高いアラブ諸国において効果的な家族計画の普及を図るための重要な基礎資料となることが考えられる。したがって、本論文は学位の授与に値するものとする。